



# エゴノキ (チシャノキまたは野茉莉)



エゴノキ科エゴノキ属 *Styrax japonica*。  
30号館と潜龍池の間の木立の中に1本  
だけ見つけた。庭木として植えられた  
ものだろう。落葉小高木で日本各地に  
生育するという。5月頃に咲く白い花の  
形と樹皮の様子からカイドウの仲間か  
と思ったが、花卉が少し尖りどこか違  
う。下向きに群れ咲く可憐な花に感銘

学校法人中部大学 総長補佐

太田明徳



を受けたのだが、名前を調べると「エゴノキ」であった。自分勝手な木ということではなく、果実がえぐい(えごい)ためらしい。「これは食べられませんよ」という実用本位の名前で、清楚な花の姿にふさわしくない。一月ほど経って見に行くと果柄の先に青白い実がついていた。北米の同属近縁種は snowbell と呼ばれ、図鑑で見ると、エゴノキに似た白い花がたくさん垂れている。エゴノキは Japanese snowbell というらしい。

その強いえぐみは果実に含まれる有毒なエゴサポニンという物質によると言う。界面活性剤のような性質があり、果実を水とともに揉めばせっけんのよう泡立つらしい。でも、有毒だから

せっけんにはしない方が良さそうである。エゴノキの仲間は東アジアを中心に130種ほどもあり、それらの中には樹脂に安息香(ベンズイン)を含み、香料の原料となるものがある。

本学のエゴノキは写真を撮影した翌年の台風によって近隣の木が倒れ、その下敷きとなって折れてしまった。その後根本から伐採されてしまい、がっかりしたが、最近行ってみると、切り株から新しい枝が伸びている。無事成長して花をつけてほしい。

参考：原色日本植物図鑑(木本編I)、ウィキペディア日本語版・英語版、京都民報WEB(2013.7.29)仲野良典によると、北原白秋の詩に「水口のえごのひと木の群花は田の植ゑそめていよよすがしさ」がある。